

ナホトカ号重油流出に対する行政の取り組み

8 2 1 3 8 1 2 8 渡邊勇太

● 事故の概要

1997 年 1 月 2 日未明、大しけの日本海（島根県隠岐島沖）において、暖房用 C 重油約 19,000 kl を積んで上海からペトロパブロフスクへ航行中のロシア船籍タンカー「ナホトカ」号（建造後 26 年経過）に破断事故が発生。

船体は浸水し、31 名の乗組員は救命ボートに避難。しかし船長は行方不明となり、後日福井県の海岸に遺体が漂着した。

船体は水深約 2,500 m の海底に沈没したが、船体から分離した船首部分は強い北西季節風にあおられて数日間南東方向へ漂流し、対馬海流を横断して 1 月 7 日 13 時頃、越前加賀海岸国定公園内の福井県三国町安島沖に座礁した。

積み荷の重油は、約 6,240 kl が海上に流出。また、海底に沈んだ船体の油タンクに残る重油約 12,500 kl の一部はその後も漏出を続けている。

座礁した船首部分の油タンクに残っていた重油は、海上での回収作業および陸上からの仮設道を利用した回収作業により 2 月 25 日に回収を終えた。

海上に流出した重油は福井県をはじめ、日本海沿岸の 10 府県におよぶ海岸に漂着し、環境および人間活動に大きな打撃を与えた。

● 油汚染事件への準備および対応のための国家的な緊急時計画 （平成 7 年 1 2 月 1 5 日閣議決定）

<http://www.erc.pref.fukui.jp/news/oilplan.html>

● ナホトカ号海難・流出油災害

平成 9 年 1 月に発生したナホトカ号海難・流出油災害において、日本海沿岸に重油が漂着し、関係機関、地元住民のほか、県内外からボランティアが駆けつけ、厳しい気候条件の中、ひしゃくや竹へら等を用いた手作業を中心とする油回収作業に従事しました。災害発生後、4 か月間に活動したボランティアの数は、のべ約 28 万人に上りました（平成 9 年 5 月 6 日現在。自治省消防庁まとめ）。

関係府県や市町村においては、関係団体との連携や既存のボランティアセンターの活用も図りながら、ボランティアの受付窓口を設置し、登録、あっせん等を行いました。この際、インターネット等を活用して、申込方法、作業日程、活動場所、準備品、健康管理上の留意点等について情報提供を行う例も見られました。また、自治体によるボランティア保険の保険料の負担もなされました。さらに、重油の人体に与える影響に関し十分な配慮が必要であったことから、関係省庁から都道府県等に対し、重油回収に伴う健康上の注意事項についての通知がなされ、現場の関係機関からボランティアに対し注意喚起が行われました。

また、阪神・淡路大震災においてボランティア活動を経験したボランティア団体が、ボランティア本部等の立ち上げ、運営等について地元の市町村や団体を支援する例も見られ、ボランティア相互の連携、ボランティアと行政との連携等において、阪神・淡路大震災の経験と教訓が活かされていたと言えます。

- 今回は事故の概要を調べましたが、今後は事故後の法律の改正で船がどう変わったのかを調べていきたいと思います